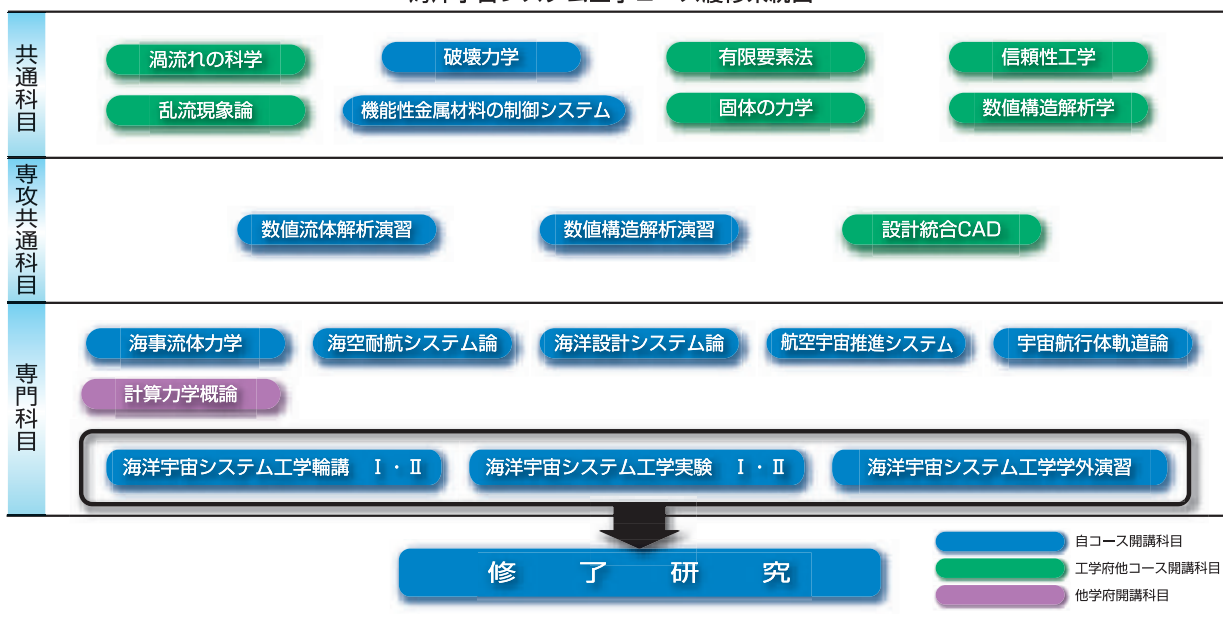


大学院教育を点検した結果、共通科目はEngineering Scienceの流れをくむ特徴あるカリキュラムですが、専門科目は、どの様な講義ができるかという観点から決められ、高度技術者養成に必要な体系的カリキュラムになっていないことが判明しました。一方、学生の方は、教員による履修指導の形骸化のために教育目標が理解されず、学生の勉学成果が正当に評価されるシステムになっていないことが実効を阻害していることが判明しました。

以上の問題を改善すべく幾つかの提言が実行に移されましたが、実質化の正否は、本質的に教員および学生の意識改革にかかっています。多くの教員は、日々教育の改善に真剣に取り組んでいますが、問題は組織的な取組がなされるか否かであり、教員も学生も工学府が目指す教育目標を共有するようになって初めて、外部に発信できるような大きな成果となります。

海洋宇宙システム工学コース履修系統図



これからの大学院教育のビジョン

我が大学院教育は1963年修士課程、1985年博士課程設置の後、2001年4月に大学院部局化を行いました。これにともない学部の上に直結する専攻(生産工学、物質工学、計画建設学、電子情報工学)を、新たな枠組みで4専攻(機能発現工学、システム統合工学、社会空間システム学、物理情報工学)に再編することとし、これと同時に講座制を発展的に解消しました。2004年4月の法人化を経て、現在、工学府入学定員は博士前期課程273(学生数は877)、後期課程68(学生数は181)です。我々の大学院教育の特徴は産業の中心地京浜地区の工学系大学院として社会のニーズを先取りした新たな学問分野を切り開き、研究活動による知の創造をもとに教育を行い、研究教育成果を社会で評価される卒業生という形で社会に還元してきたことでしょう。教育企画経営会議では、新時代の工学に適合した長期的な教育ビジョン原

案を作成、2004年度末の中間報告「学生の視点からの教育改革」にまとめました。その中では、大学院入学選抜、大学院工学教育システムの再構築、論文修士・課程修士、主専攻・副専攻、クロスディシプリナリーユニットの展開といった問題を取り上げました。また学生の学習記録および学習の中で生まれた創作を記録するデジタルポートフォリオ教育の概念の導入、新しい学習空間の創設としての横浜エデュカトリウムの提案も行いました。その内容は2005年6月の中央教育審議会中間報告「新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」の内容を先取りしたものでした。このWG中間報告を受けて、工学府は文部科学省の二つの教育プログラム：国際化推進プログラム『イノベーションを指向した工学系大学院教育』と、大学院教育イニシャティブ『大学院学際教育横浜マイプロジェクト』を計画しました。ともに技術者、研究者養成に加えて、起業技術者育成を含めた多様な形態の工学系大学院を目指し、社会人を視野に入れ、広い分野にまたがる教育体系(クロスディシプリン)を提案しています。